

ジョイサポコラム No.14

スヌーピーマニア

横須賀市立うわまち病院 飯田 真岐



小学校入学のお祝いに知人からスヌーピーのぬいぐるみをいただいてから、これまでの生活はスヌーピーと共にある。スヌーピー誕生は1950年で、すでに70周年を経て、今年には作者チャールズ シュルツ氏生誕100年を迎えた。日本は様々なグッズが発売されており、大阪のユニバーサルスタジオではスヌーピーのエリアがあるし、かつて六本木にあったスヌーピーミュージアムは現在町田に移転し賑わっている。昔はライセンス契約のため、スヌーピーの商品は今ほど各地での生産はなかったが、近頃ではご当地スヌーピーのグッズを手に入れるため、私の場合旅行先が決定されたりする。イベントで、スヌーピーグリーティングという、着ぐるみさんが写真撮影に応じてくれたり。その中に

はもちろんヒトが入っていて、スヌーピーがいるはずもない、もちろん漫画の世界の話であり、いるわけないのだが、つい撮影の整理券のため並んでしまう自分がある。スヌーピーさん、暑い中ご苦勞様なのです。

さて、さかのぼって高校時代、東京原宿に行ってみたところ、スヌーピーの看板発見！どんなお店かと覗いてみると、アメリカで販売されていた、スヌーピーのレアなビンテージの商品が沢山並んでいて衝撃を受けた。日本では見た事のない、レトロでコレクターの購買欲をそそる品々。アメリカに行けば、こんな見た事ないようなモノが沢山あるんだな、と思った。その頃はインターネットも携帯電話もない時代。いつかお金を貯めて、またこの店に来ようと決意。やはり本場ものは違う、専門店があるのかもしれないなどと妄想していた。

話を戻して、年齢を重ねると共にスヌーピーグッズは部屋に積み重なり、スヌーピー部屋をコーディネートしたものの、整理整頓が苦手なので半分物置となってしまう。かつて大学勤務時代にアメリカ・ニューヨークに病理のvisiting scientistとして数年居住していた際に、近所のフリーマーケットで、かつて見たようなビンテージのスヌーピーグッズを発見。しかも非常に格安でまとめ買った。アメリカに来て本当に幸運だ！スヌーピーが私を呼んでいたのだ！と喜びをかみしめた。しばらくしてeBayというオークションサイトでビンテージスヌーピーが山のように出品されていることに気づき、コレクションが増え続けた。今はガラスケースに並べてあり、横須賀のスヌーピーミュージアムとしてもいいかな、なんて思える。シュルツ氏は残念ながら2000年に亡くなられた。毎日大衆新聞の4コマ漫画を一人で書き続け、亡くな